

令和5年度 小平市立鈴木小学校 学校評価報告書									
学校教育目標 よく考え やさしく 元気な 鈴木の子 （〇よく考える子…基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、根拠を明確に自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども）									
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】 笑顔あふれる学校 共に成長する学校 郷土を愛する学校									
【目指す児童・生徒像】 様々な人の思いや考えを大切にし、相手の気持ちを考えて行動する思いやりとやる気をもち、粘り強くチャレンジし成就感や達成感でいっぱいにする児童									
【目指す教員像】 自己の使命と責任を自覚して学校を開き、教師同士が学び合い、協力し合って職務に励み、子どもと共に成長する教師									
前年度までの学校経営上の成果と課題									
成果:小中連携三中区校として学習者用端末を用いながら公開授業を行い、異校種での情報交換を実施した。特別支援学級拠点校として全学級での理解授業と学期ごと校内評価を実施し児童理解を深めた。学習者用端末持ち帰りをすすめたり、学習者用端末使用時のスキルの基礎を構築した。課題:ICT機器導入や行事の感染対策等で教員の在校時間が増えている。									
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策	
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標			
学力向上	学習規律を身に付け、知識・技能の確実な定着を図る。 ・年間を通して鈴木タイム、ベーシックタイムを実施し、個に応じて自己の力を提示し、弱点を指導する。 ・家庭学習10分×学年の定着を図る。	3	2	課題:「話を最後まで聞き、正しく聞き取ることができる」は、肯定的な回答が80%を下回っている。家庭学習の意識が70%を下回っている。対策:発達段階に応じて自学習を計画実施する力を付けていく。成果:鈴木タイムやベーシックタイムで基礎基本の定着を90%近く児童は実感している。今後も継続する。	3	3	・少しでも多くの参観をしていきたい。 ・どの教室も落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・家庭学習の取組が広がっていくとよい。	成果:鈴木タイムとベーシックタイムでは国語と算数の基礎・基本が定着してきた。課題:家庭学習や自主学習の習慣化は、年間を通して徐々に進んだものの個人差がある。次年度は、鈴木タイムは目標を提示して進める。ベーシックタイムは個の定着度と課題を可視化して継続する。家庭学習は、学級で多様な学び方を随時共有し学習者用端末も有効活用していく。	
	〇主体的・対話的で深い学びの確立をする。 ・小平市教育委員会研究推進校として校内研究を軸に問題解決型の授業を推進するために、全学級「算数」の授業公開を実践する。	4	3	成果:「学習内容の分かりやすい工夫をしている」「学習問題を解決するために最後まで粘り強く取り組んでいる」「友達の話聞いて、考えていることが分かる。」に対して80%以上の肯定的回答である。今後も継続する。	4	3		成果:問題解決型学習が定着した。児童はペアやグループでの話し合いが有効であると実感している。課題:友達のことを理解することは、7月に比べて12月は5ポイント下がった。次年度も引き続き問題解決型の学習の中で主体的・対話的で深い学びの質を高めていく。	
健全育成	「いじり・いじわる・いやがらせ」の3原則でいじめを根絶する。 ・いじめに関する授業を年3回全学級で実施するとともに思いやり、信頼や相互理解の意識を高める学習を実施する。	3	1	成果:児童は、「どんな理由でもいじめはいけない」と90%以上理解している。課題:保護者は、いじめ防止の取組について肯定的な回答が70%を下回っている。対策:朝会や保護者会で「いじめは絶対にいけない」と校長が講話するとともに、いじめ防止の学級指導と授業を今後継続し、いじめ事案は、組織で迅速に対応していく。	3	2	・「どんな理由でもいじめはいけない」がなぜ100%にならないのかを考察していただきたい。 ・授業補助に入るといじりの段階が多く・謝ることが少ないと感じる。 ・授業補助に入ったところは昨年度より挨拶をする。	成果:「いじり・いじわる・いやがらせはいけないよ。」と児童が友達に話すほど校長の講話が浸透している。教員もいじめの芽を見取ると迅速に報告や聞き取りを行っている。課題:友達の見守りや傷つく児童が存在した。次年度もきめ細かく児童を見取り、いじめの芽も根絶する学校風土をつくっていく。	
	人権教育の推進をする。 ・「自らすすんで、目を見てあいさつ」を推進する。年間「あいさつ運動」を学年発案で実施し、挨拶の習慣化を図る。	3	2	成果:全校で取り組んでいる「いいねさん」カードは、徐々に増えている。各学級の帰りの会でも取組を継続している。課題:「友達のよさを見つけている」「すすんであいさつをしている」は、肯定的な回答が80%を超えていない。対策:保護者へも挨拶の奨励をすることにも形骸化を防ぎ価値付けをしていく。	3	3	・挨拶は学校だけではなく家庭や地域の課題としても捉えていきたい。	成果:児童や学校経営協力者が、以前より挨拶をするようになったと感じている。友達のよさを見つけようよりよい学校にしようとする児童の意識は高まっている。課題:児童にとって顔見知りでない来校者への挨拶が消極的である。次年度に向けて来校者の方へも挨拶をして心を通わせようとする校風をつくっていく。	
体力向上	運動習慣定着と運動への興味関心の向上を図る。 ・休み時間の外遊びを推奨する。 ・縄とびやマラソン 旬間を通して継続的に体力向上を推進する。 ・体育集会等で児童発案の多様な運動にふれ、運動する良さを味わわせる。	3	2	成果:「体を動かすことが楽しい」「運動に親しんでいる」は、80%以上肯定的な回答である。課題:「外遊びをしている」「日常的に体を動かしている」は、80%を下回っている。対策:コロナ禍や猛暑で外遊びが制限されたことも要因の一つと考えるが、運動の推奨と体育館使用の活性化を行っている。	3	2	・継続していただきたい。	成果:7月に比べ肯定的な回答が増えた。業間体育も活発で、休み時間の体育館使用もできた。課題:休み時間の外遊びは80%を下回っている。次年度に向けて運動の日常化を進めるよう体育部と委員会が連携し新たな試みを検討実施するとともに外遊びのよさを児童に伝えていく。	
自立の促進	安全教育の充実を図る。 ・年間計画に基づいた安全指導を防災ノート等を活用し、毎月1回全学級で実施する。 ・「安全教育プログラム」(SNS東京ノート)「鈴木小のきまり」で理解定着を図る。	3	4	成果:肯定的な回答が児童・教員・保護者ともに90%を超えている。引き続き計画を実施していくとともに、随時安全指導を丁寧に実施していく。	3	4	地域・保護者と協力して安全に登下校も含め見守りたい。	成果:肯定的な回答が保護者・地域は95%、児童は91%となった。保護者からのアンケートを基に保健の会で学区危険箇所資料が作成された。次年度も継続して月1回の安全指導を実施するとともに、随時校内・外の安全教育を年間指導計画に沿って実施する。引き続き地域や保護者とともに推進していく。	
	特別活動の充実を図る。 ・たてわり班活動や学年学級で発案実行し互いのよさを認め合う活動を実践する。	3	3	成果:「自分たちで考え、よりよい学校や学級にしよう」と思っている」「たてわり班活動や他の学年との活動に楽しく取り組んでいる」に対する肯定的な回答が80%を超えている。今後も児童発案の取組を推奨していく。	3	4		成果:委員会・クラブ・運動会・展示発表会等で児童発案の活動を行った。たてわり班活動では、90%が肯定的回答となった。次年度に向けて、これらの取組を丁寧に引き継ぐとともに次年度の新体制で児童の意見を活かしながらよりよい学校をつくっていく。	
の郷土成愛	地域人材や関係機関との連携強化を図る。 ・地域人材や関係機関との連携した学習を全学年で実施する。	3	3	成果:児童・保護者も80%以上の肯定的な意見で、例年に比べ向上している。今後もコーディネーターや関係機関などと連携をして進めていく。	3	3	・保護者の回答が「分からない」が20%であることを踏まえ、取組が伝わるようにしていただきたい。	成果:学校関係各所と連携しながら伝統文化授業や地域行事を行った。課題:活動の内容が保護者に伝わっていない部分があった。次年度も引き続き関係各所と連携して活動を行い、内容については学校便りやホームページで情報発信に努めていく。	
教育特色ある活動	地域と協働して教育活動の充実を図る。 ・都型学校運営委員会を年間6回実施し、共通する内容から分科会に分かれ、具体的な取組を検討する。	3	3	都型学校運営協議会を実施し、三つの分科会に分かれ方向性を協議している。市教委からも2名2回参加され、避難所マニュアル作成に向けて協議をした。保護者や教職員へも準備委員会便りを3号発行し啓発した。今後は、保護者の声を聴くアンケートを実施し、さらに具体的な内容を検討していく。	3	4	・ボランティアにいらっしゃる方が減っているので、増えるよう考えていきたい。	成果:年6回都型学校運営協議会を開催し、各プロジェクトで内容を検討し、コミュニティ・スクール準備委員会便りを発行した。課題:ボランティアへの参加数が少ない。次年度に向けて、保護者や地域の方と連携し、教育活動に関わっていただける風土をつくっていく。	
業務改善	勤務時間と健康管理を意識した働き方を推進する。 ・学習者用端末やC4thを活用し会議時間の短縮、各種印刷物の電子化、校務軽減・ペーパーレスを校務の精選を推進する。	3	3	各会議や提案、反省やアンケート集計、学校便りは、ほぼデータ化した。保護者との会や地区の便りもメール配信に変更した。C4thもさらにできることが広がるので、有効に活用していく。	3	3	・各種便りのメール配信は、必要な時にすぐ閲覧できる利点だと評価を得ている。	成果:概ね電子データ化し、勤務時間短縮及びペーパーレスにつながった。より一層、長時間勤務の解消を進めるために、データ化できるものについては年度末までに検討し準備する。また、新しくなる校務システムも有効活用していく。	